

パブリックコメントについて

1 意見募集の実施期間 令和5年11月21日～令和5年12月22日

2 寄せられた意見数 6人（6件）

3 意見

（1）今回の体育館の構想の案として、市民の心とカラダの健康を目指し、八戸市を住みやすい街にし、移住者を増やし、八戸市の魅力(食べ物、自然)を国内外に発信出来る施設に。

1. 移住者を増やす

介護予防センターを「人生100年時代」の対策としての健康保養施設として利用出来る設計をしたら良いと思います。介護予防を柱に、若い層から高齢者層までの幅広い層に対応させるカリキュラムを作ると良いと思います。市民の方が実施し、効果がでたら、国内に発信して「住みたい市」として、移住者が増やす事も出来る。これからは、少子高齢化が進む世界にも、新しい市の取り組みとして世界に発信が出来、「観光」を売りにしている日本だから出来る、「行く意味のある八戸市」の構想も出来ます。年間ランニングコストだけで考えると¥48,000,000位プールはコストが掛かるので作らず、体育館の観客席の後ろのスペースか、体育館の周りを利用した高低差が有る屋内ウォーキングスペースを作ると良いです。天候に左右されない継続した運動習慣が可能になります。「健康作り」は、継続が必要です。そのためには、浮いたランニングコストをインストラクターやスタッフの人件費に使います。

2. 公式戦が出来る施設にして、国内外の方々を八戸市に呼び観光地としてアピールする。柔道場、剣道場、バスケットの出来るスペースは、公式戦(世界選手権)の出来る施設にして、国内外の人を招致する。

国内の選手から海外の選手まで招致し、飲食店、交通会社、ホテル業等の経済に影響力を及ぼす仕組みにする。今までの概念を変えて、ハード(建物、中の機材)は、最小限にし、ソフト(サービス)にコストをかける事が必要です。全国ではまだやっていない事です。八戸市がその先駆けとなれば、人口増

加や経済的にも発展していけると考えます。知事の言っている「青森新時代」新しい景色を見ることができると思います。

(2) 新八戸市体育館の建設計画について要望がございます。

その前にですがアイスアリーナが完成した時はその大きさに驚きました。その敷地にあった陸上競技場と桜木町側のグラウンドが無くなってその寂しさは隠せませんでした。私は長根公園近くに住んでいるものですが陸上競技場では朝晩のジョギングに利用させてもらっていたし桜木町側のグラウンドもサッカーとか春は緑化祭りとか楽しみがありました。その楽しみが無くなって寂しくなったものでした。運動場と緑が無くなるのは本当に寂しいです。

新体育館は旧体育館よりも大きくなると聞いております。かねてより心配だったのはもしかして市民プールがあった場所にドーンと建設されるのではないかと心配しておりました。もしそれであれば今までの長根公園の景観が損なわれてしまうのではないかと心配していたのです。11月21日のデーリー東北新聞に建設計画が掲載されました。建設場所は元体育館があった場所の隣に建設されるようです。安堵いたしました。私の希望は元体育館を解体してその場所に建てるのが一番いいと考えていました。しかしそれは叶わないと聞いておりましたのでせめて元体育館のあたりに建ててもらいたいと言うのが私の希望でした。その希望通りの場所ではっといたしました。

別添付用紙の①が建設予定地です。③は駐車場になるらしいです。そして私の希望ですが②に是非緑を作ってほしいと思います。全部駐車場にされては困ります。周知のように道路脇には桜並木があります。春には桜をゆっくり観覧できるような小さな憩いの緑を作ってほしいのです。遊歩道をつけてそしてベンチを置いて市民がゆっくりできる緑を作ってほしいのです。そうすれば道を車で走っている人にも景観が良くて癒されると思います。もちろん私も自宅から歩いて買い物に行きますし癒されます。ハコモノをどんどん作るのもいいですが緑を大切にしておいてほしいのです。その点、東京はあんな大都会でもちゃんと緑があり綺麗に管理されています。どうぞよろしくお願い致します。



(3) 現在の計画案によると、プールは25mプール8レーンのみとなっています。確かに競技団体の意見や学校のプール授業に使用するというのであればこれで十分かもしれません。しかし、私は子どもや若者、家族が楽しめるプールを作りたいと思います。

八戸市には子どもが遊べる施設が圧倒的に不足しています。その中で子供たちが思いっきり遊べる現在の長根のプールは貴重な存在です。これからいかに子育てに適した街であるかが問われています。せっかく新しく作るのであれば、流れるプールやウォータースライダーなどが設置されている家族連れやデートなどでも利用が見込まれるような、市民が楽しめる施設を作ってほしいのです。

かつて「けんじワールド」という施設がありました。この地域にとってはとても貴重なものでしたが残念ながらなくなってしまいました。市内に遊べるところがあるというのも地域の魅力ではないでしょうか。「夏と言えば八戸のプール！」と県外からも集客できるような施設を整備できれば、それは大きな財産となります。

例えば、「アクアブルー多摩」「元気ぷらざ」「すみだスポーツ健康センタ

一」「萩中公園プール」等のようなものがあればどれほど喜ばれることか。

また、プールの外、北側の敷地は駐車場になるようですが、それはもったいない使い方だと思います。その場所に夏は巨大なエア―遊具を設置し、巨大なウォーターライダー等を設置し、八戸市に最も足りていないアミューズメント施設として整備できれば素敵です。

そしてもう一つはLGBTQ+に配慮した設計を取り入れることです。これから作るものはこれを意識しなくては作った瞬間に前時代のものになってしまいます。具体的には「オールジェンダートイレ」と「オールジェンダー更衣室」です。男性用と女性用の他、誰でも利用できるオールジェンダートイレを設置する必要があります。個室化され、男性用と女性用の間に設けることが良いのではないのでしょうか。「KADOKAWA 所沢キャンパス」などが参考になるのではないのでしょうか。

「オールジェンダー更衣室」はまだまだ試行錯誤中のようなのですが、更衣室とシャワールームは完全個室とし、それ以外にロッカーを設置するのがよいのではないのでしょうか。もちろんこちらも誰でも利用できるものとします。誰でも気兼ねなく利用できる設備を行政が率先して設置することはとても大事であり、体育館に取り入れることで全国的にも注目される取り組みだと思います。既存のものを直すのは難しいですが、せつかく新しく作るのであれば導入するべきかと思います。

近年八戸市は多くの施設を作ってきたと思いますが、市民の本当に求めているものと少しずれているのではないかと感じています。競技団体やプロスポーツ、芸術家、有識者の意見は重要です。ですが実際に利用する多くの方は普通の一般の市民であり、そこに求められるのは自分たちが楽しめるかどうかではないのでしょうか。

市民が本当に楽しめる、市外県外の人に八戸にはこんなに面白いものがあるから、連休には遊びにおいでよと言えるものを作ってもらいたいのです。それが市民が本当に望んでいることです。どうか、一般的な市民が喜んでくれる施設をお願いします。

(4) デシカント（除湿）空調設備の導入をご提案します。⇒ZEB 化支援事業 oriented 申請で導入必須の未評価技術として、公益社団法人空気調整衛生工業会にて採択発表され、ZEB ポータル内「用語集」に説明記載されている設備。

1. 導入目的

利用者の快適性向上実現及び環境負荷の低減（省エネと CO2 排出抑制）「計画案 P17（2）環境負荷の低減、（4）快適性」

2. 方法

メインアリーナ、サブアリーナ、並びにプール、トレーニングルーム、更衣室等にデシカント（除湿）機を導入し除湿空調する。「計画案 P27④空調・機械設備等」

3. 効果

1) 快適環境の実現

- ・同室温でも低湿度にすることで、運動する利用者の快適性が向上される。
- ・デシカント（除湿）方式は、一般空調方式に比べ圧倒的省エネであるが除湿効果は3倍以上を発揮する。
- ・運動中の熱中症暑さ指数（WBGT 値）の安全レベル実現可能。

2) 省エネ実現

- ①デシカント（除湿）空調方式以外の一般空調方式は、「大エネルギーを要する過冷却⇒再加熱⇒霜取り」を繰り返さねば除湿できないが、デシカント方式は除湿剤に水分を吸着するだけで除湿できるので超省エネ実現。
 - ②他設備（ボイラー、冷凍機、空調機）の排熱を利用して除湿剤の再生ができるのでエネルギーコスト大幅削減が実現可能。
 - ③同一建物で併用する一般空調設備の負荷が低減し省エネ＝乾燥空気を冷房するエアコンの負荷を軽減。
- ##### 3) 環境保全
- ①冷媒を使わないノンフロン（VS 一般空調方式は除湿時過冷却用の冷凍機を要す）
 - ②CO2 排出抑制＝他設備の排熱を利用可能なので CO2 排出削減が 50 パーセント以上可能。

(5) 現在ある南部山体育館は1階がプールで3階が体育館です。夏、特にですが、プールからの湿気が上がってきて体育館の床はツルツル滑りケガしかねない状況で競技が行われています。新しい体育館もプールが併設されますが、湿気対策はされていますでしょうか？

(6) 計画策定に係る素案。国際社会の目標（地球の平均気温を+1.5℃に抑える努力を追求する）に鑑み、第3次八戸市環境基本計画（令和5年9月）、第2次八戸市地球温暖化対策実行計画：区域施策編（令和5年9月）並びに気候非常事態宣言（令和4年2月）があります。総じて言えばSDGsであります。具体的には「自然共生サイト」（環境省）の認証制度を目指していただきたい。

(背景・理由)

1. 2022年4月、日本の鉄道会社として初めて、全路線の運行に必要な電力を非化石証書によって、実質的に再エネ由来に置き換えた（東急電鉄）。
2. JR東日本：再エネ由来の電力を電車や駅に供給できるよう、東北エリアを中心に大規模な太陽光発電所（メガソーラー）や陸上風力設備を増設している。